はじめに

コンピュータシステム・シンポジウム（ComSys）は、情報処理学会システムソフトウェアとオペレーティング・システム研究会が主催するシンポジウムです。1987 年に第 1 回が開催されて以来、コンピュータシステムに関する最新の研究成果が集まる場として重要な役割を果たしてきました。本シンポジウムのスコープは、オペレーティング・システムやミドルウェア、仮想化技術、ファイルシステム、組込みシステム、ユビキタスシステム、実時間システム、ディペンダブルシステム、モバイルコンピューティング、Peer-to-Peer 技術、セキュアコンピューティング、インターネット基盤技術、並列分散システム、クラウド技術、AI 基盤など、システムソフトウェア全般の多岐にわたる内容を含んでいます。

今年の「第 38 回コンピュータシステム・シンポジウム（ComSys2026）」は、対面開催とオンラインのハイブリッド形式で開催されます。発表募集に際しては、ComSys2026 では、例年通り発表申し込みの際に、論文の有無とコメントフィードバックの有無を選択する形で発表募集を行いました。コメントフィードバックは査読ではなく、ComSys での発表後に研究内容を発展させることを目的とした前向きなコメントやアドバイスを提供するものであり、通常の研究発表会にはない貴重な機会を提供しています。また、従来通り、ポスター・デモ発表も実施します。これらに加え、ComSys2026 では学生テックトーク実施いたします。

ComSys 2026 では 23 件の発表申し込みがあり、そのうち 19 件は論文がある発表でした。また、15 件の論文投稿でコメントフィードバックを希望されており、コメントフィードバックには高い需要があることがうかがえます。TEE (Trusted Execution Environment)、セキュリティ、ストレージシステム、スケジューリング/実行計画、ネットワーク/分散アルゴリズム、最適化/高速化、AI/LLM といった幅広い分野の内容を含むものとなっており、シンポジウム当日の活発な議論が期待されます。論文発表以外にも 25 件のポスター発表、4 件の学生テックトークを予定しております。さらに、1 件の特別講演、システム分野のトップカンファレンス・ジャーナルに採択された論文を紹介する凱旋招待講演も 2 件企画しており、コンピュータシステムに興味がある方々にとって非常に魅力がある内容になっていると思います。

OS やシステムソフトウェア分野の発展は、新たなアプリケーションを産み出し、新しいハードウェアプラットフォームを活かしていくという意味で、大きな社会的使命を担っております。そのためにも、本シンポジウムから次世代のシステムソフトウェアを生み出せればと考えております。また、システムソフトウェアの研究開発、産学連携、人材発掘と育成、人的交流などを今後も推進していければと考えております。本研究会およびシンポジウムがさらに発展するよう、今後とも皆様のご支援・ご協力を賜れれば幸いです。

2026 年 12 月
第 38 回コンピュータシステム・シンポジウム 実行委員長
広渕　崇宏
第 38 回コンピュータシステム・シンポジウム 副実行委員長
深井　貴明

ⓒ2026 Information Processing Society of Japan